

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

**基準 1 理念・目的**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	B
		(3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	B
		(4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	B
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部(学科)・研究科(専攻)の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧とホームページなど)との記述の齟齬	B
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 大学の基本理念『「不言実行、あてになる人間」を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成する』は、以下の5要素に分類できる。(要素1：信頼され、あてになる人間。要素2：豊かな教養。要素3：自立・公益。要素4：国際的な視野。要素5：専門能力・実行力) [0101a]。 本研究科(専攻)の「教育研究上の目的」をもとにして作成した教育学専攻のDPと、これら5要素との関連性については、要素1・3が「学び続けることができ、教育・保育現場でリーダーシップをとることができる」、要素2が「幅広い総合的な視野と学識を有し」、要素4が「グローバル化に対応できる的確な判断力」、要素5が「教育学・保育学、教育心理学、教科教育学領域に関する学識・技術を身に付け」というように教育系大学院としての特性を踏ま

<p>えたかたちで対応関係を成立させており、教育研究上の目標は大学の基本理念に対応して適切に設定されている [0101b] [0101c]。</p> <p>0102 教育学研究科の「教育研究上の目的」に関しては、学生便覧やホームページで学生や社会に対して公表している [0101b] [0102a]。</p> <p>また、大学院担当教職員に対しては、大学院教授会（研究科委員会）配付資料に研究科の「学修教育目標」を記載するという方法で周知している [0102b] [0102c]。</p>	
<p>長所・特色 &lt;&lt;箇条書き&gt;&gt; *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0102	「学修教育目標」の周知方法（独自資料を活用）
項目 No.	
<p>課題事項 &lt;&lt;箇条書き&gt;&gt; *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0102	学部学生への「教育研究上の目的」等の周知
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0102	学部学生への目的等の周知方法の見直しについて、大学院WGで検討を行った[0102b]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
0102	学部棟内の看板設置など、教育目標、教育研究上の目的等の周知場所増設

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	中部大学 基本理念・使命・目的 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/">https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/</a>	A
0101	b	教育学研究科 教育研究上の目的（2018年度学生便覧）	A
0101	c	3つのポリシー 教育学研究科 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_education/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_education/</a>	A
0102	a	教育学研究科 教育研究上の目的（研究科ホームページ） ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/academics/graduate/education/">https://www3.chubu.ac.jp/academics/graduate/education/</a>	A
0102	b	2018年度 第4回大学院WG議事メモ	A
0102	c	2018年度 第6回教育学研究科委員会議題	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

**基準 2 内部質保証**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内内部評価を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203 2017 年度に実施した自己点検評価活動、および、本年度実施する自己点検評価活動の中で、研究科の教育・研究に関する質保証について検証している [0203a] [0203b]。 さらに、本研究科には定期的に文部科学省の調査が入るため、これを意識して日常的に全体にわたる点検、見直しを行っている（教育課程、教員の専門性など） [0203c] [0203d]	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0203	教職課程認定大学等実地視察および教職課程再課程認定への対応
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0203	外部評価の充実
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0203	2018 年度は文部科学省への教職課程再課程申請を行い、認定を受けた [0203e] [0203f]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0203	学部と連動し、事業計画への外部評価予算の申請

--	--

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	2018 年度（対象年度：2017 年度）自己点検・評価シート	A
0203	b	2018 年度 第 2 回教育学研究科委員会議事録	A
0203	c	2015 年度 教職課程認定大学等実地視察について（文部科学省）	A
0203	d	実地視察大学等別報告書（中部大学）	A
0203	e	教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	A
0203	f	教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定について（通知）	A

0203 提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、卒業認定・学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した卒業認定・学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・卒業認定・学位授与方針（DP）の設定	B
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施方針の設定になっていますか。	B
		(2) 学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施方針の設定になっていますか。	B
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を社会に対し、公表していますか。	B
		(4) 卒業認定・学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な連関性となっていますか。 ・「卒業認定・学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施方針（CP）」との整合	B
0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	B
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	B
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	B
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	B
		(5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	B

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	B
		(7) 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	B

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401	修了認定・学位（修士）授与方針については、研究科で方針を定め学生便覧・ホームページに明示している [0401a][0401b]。
0402	教育学専攻のCPを研究科で定めホームページに明示している [0402a]。 さらに、CPで示した内容を具現化した科目を「基幹科目」「専門科目」に分けて便覧に具体的に示している [0401a]。 CPと同じホームページ上に、教育学専攻のDPも示し両者の対応関係が分かるようになっている [0402a]。
0403	教育課程の編成・実施方針にそった授業内容となっているのかという視点で、毎年、教育学研究科が実施するすべての授業のシラバス点検を行っている。教育学研究科においては、学生便覧に明示した履修に関連する情報をもとにして、指導教員と大学院生とが相談して2年を基本としたコースワークを進めるように、入学年度当初のオリエンテーションで指導する [0403a]。 リサーチワークに関しては、院生の研究分野に応じたスーパーバイスが可能な教員を指導教員（主指導・副指導となる複数名）として、修士論文をまとめるプロセスで長期的に実施する体制が確保されている。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0403	文部科学省の実地視察への対応および教職課程再課程申請
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0403	大学院生にとってより魅力的なカリキュラム構成の検討
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0403	2018年度は教職課程再課程認定申請に対応した今日的な教育課程の見直しを行った [0403b][0403c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0403	大学院生にとってより魅力的なカリキュラム構成の検討

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0401	a	修了の要件 (2018 年度 学生便覧)	A
0401	b	修了要件 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/credits/#s">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/credits/#s</a>	A
0402	a	3つのポリシー 教育学研究科 ホームページ <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_education/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_graduate_education/</a>	A
0403	a	2017 年度 教育学研究科新入生オリエンテーション配付資料	A
0403	b	教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について (通知)	A
0403	c	教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定について(通知)	A

提出区分 … A: 本シートと一緒に提出する資料 B: 現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	B
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	B
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	B
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	B
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	B
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	C

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	B
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	B
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	B
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続は明確に示されていますか。	B
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	B

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404 シラバスには、授業の目的、成績評価の具体的な方法を記載しており、記載内容に関しては毎年、シラバス点検の機会に点検活動を実施している。大学院生の主体的な参加を促す授業形態として、院生数が少ないことを最大限に活用した演習形式を取り入れた授業を実施している[0404a]。 また、年間指導計画に関しては、学事カレンダーをもとにして指導教員と院生とが密接に連絡を取り合い、院生の研究内容に応じた計画を作成・実施している[0404b]。	
0405 すべての授業の単位認定基準は、個々の授業のシラバスに記載され、「達成目標」「評価方法」も基本的には同じ紙面に記載されていることから、受講生は単位認定基準と「評価方法」等を同時に確認することが可能である。また、成績評価に対して疑問がある学生は、定められた期間内であれば教員に確認を願い出ることができ、成績評価・単位認定が適切に行われるようにしている[0405a]。 それぞれの授業の専門性が高いことなどの理由で、評価の客観性・厳格性を担保する組織な仕組みを大学院教育の中で実施することは難しいが、何らかの方法で改善を進める必要がある。修了要件は学生便覧に明示している[0405b]。また、修士学位審査の中心となる修士論文審査に関しては、審査の基準・審査手順等を便覧に明示している[0405b]。さらに、様式や提出手順などを学生・教員に明示し、客観性・厳格性が確保されている[0405c][0405d]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404	院生の主体性を促すための、研究内容に応じた履修オリエンテーションの実施
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0405	成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0404	2018 年度は教職課程再課程認定申請を通じて、大学院教育を活性化するために必要な院生数の確保に貢献するカリキュラム編成の見直し（教科教育学領域科目の偏りの是正）を行った[0404c]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0405	成績評価の客観性・厳格性を確認する方法の検討

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	関連授業シラバス例	A
0404	b	学事カレンダー（2018年度）	A
0404	c	2019年度 教育課程変更について	A
0405	a	成績報告について（2018年度春学期）	A
0405	b	2018年度学生便覧（該当箇所 p. 4）	A
0405	c	中部大学大学院教育学研究科の学位に関する内規	A
0405	d	教育学研究科修士論文提出要領	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	卒業認定・学位授与方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	A
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	A
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406 学生の学修成果に関してはシラバスに掲載された指標で評価している。大学院の授業であることからその専門性が学部の授業に比べて高いなどの理由で、具体的な評価方法に関しては授業によって大きく異なる。また、教育学研究科の場合、所属する大学院生が1～3名程度であるために、数量的な評価よりも個々の受講生との対話を重視した質的な評価を用いることが可能で効果的であるために、多くの授業では対話を重視した質的な評価を行っている。
0407 教育学研究科は、幼稚園教諭専修免許状および小学校教諭専修免許状を付与することが可能な教職課程を有し

ており、大部分の授業がこの教職課程に関連した授業となっていることから、厳格に教育課程を管理することが文部科学省から求められており、実地視察等の外部評価に対応できるように教育課程の自己点検・評価を継続的に実施している[0407a][0407b][0407c]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0407	文部科学省による実地視察等への対応
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0406	大学院教育を活性化するために必要な大学院生数の確保
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0407	2018年度は教職課程再課程認定申請を通じて、大学院教育を活性化するために必要な院生数の確保に貢献するカリキュラム編成の見直し（教科教育学領域科目の偏りの是正）を行った[0407c]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0406	大学院教育を活性化するために必要な大学院生数の増員

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0407	a	2015年度 教職課程認定大学等実地視察について（文部科学省）	A
0407	b	実地視察大学等別報告書（中部大学）	A
0407	c	教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	A
0407	d	教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定について（通知）	A
0407	e	2019年度 教育課程変更について	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

基準5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 卒業認定・学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	B
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	B
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施方針 (CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	B
		(3) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	B
		(4) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	B

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・ 入学定員に対する入学者数比率 ・ 編入学定員に対する編入学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率	C
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・ 学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・ 年度重点目標の設定	B

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0501	入学生受け入れ方針、教育課程、修了認定・学位授与方針等については、毎月の研究科WGで確認するなどして一貫性を保っている。入試関連資料の記載内容も、毎年、大学院WGで確認している[0501a][0501b]。 入学生に求める学力水準等は、入学希望者に対する個別面談等の機会に大学院で研究したいテーマに応じて説明している。
0502	入試システムおよび入試に関しては、研究科内でチームを編成し、公正・公平な入試となるようにしている。
0503	入学定員に比べて受験者・入学者の数が少ないので何らかの抜本的な対策が必要である。
0504	学生募集に関しては、教育学研究科と関連が深い現代教育学部の学生を対象にした説明会を実施したり、研究科に関する話を、学部担当の教員が卒業研究指導生に話したりする際に、大学院の入学生受け入れ方針を確認している[0504a]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	入学希望者に対する入学前個別面接の実施
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0503	定員の充足(入学生確保)
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

0504 例年参加者が少なかった6月大学院入試説明会を、受講者が多い学部の授業終了直後に実施した[0504a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0503	定員の充足

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	2020 年度 教育学研究科入学試験要項（案）	A
0501	b	2018 年度 第 11 回大学院WG議事メモ	A
0504	a	大学院進学説明会開催案内	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

基準6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	B
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	B
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	B
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	C
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	B
		(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602 大学院生の人数は少ないが、研究科の特性から院生の研究分野が多岐に及ぶために、現在の教員数は概ね適切な数である。教育学研究科の DP に示した目的を達成するために教育学、教育心理学、教科教育学の教員が適切に配置されており、教育学研究科の教育・研究目的を実現できる教員組織となっている[0602a]。 大学院担当教員の適性に関しては、大学院教員資格審査教授会で審査している。資格審査教授会は、2017年度は11回（Mマル合：6名、M合：4名）、2018年度は3回（Mマル合：2名）それぞれ開催した[0602b]。2017年度の審査回数が際立って多い理由は、文部科学省から指摘を受けていた教員の偏りを是正し、教職課程の再課程認定に対応するためである。	
0604 現代教育学部と共催するなどして、年度目標を決めてFD活動を組織的に実施している[0604a][0604b]。	
0605 教員組織の適切性に関しては、大学院教育の対象となる学生の人数が極めて少ないことから、活動内容に対応した多様な組織を教員が構成するのではなく、大学院WGで集中的に多くの活動を企画・推進している。そのため、組織化された活動とは言い難く、組織としての適切性を判断することは難しいが、大学院生の研究志向性に柔軟かつ迅速に対応することができ、院生の研究活動や教育を滞りなく進めることができていることから、大学院の規模に応じた運営はできている。自己点検評価に関しては、今回実施している活動や昨年度の自己点検評価活動の機会を利用して、点検・評価を行い、評価活動の記録を材料にして改善・向上に向けた取り組みを日常の大学院教育の中で実施している[0605a]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0604	学部と連携したFD活動の計画的な実施
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0602	教員年齢構成のアンバランス
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0605 2018年度は教職課程再課程認定申請の機会に、教員組織の適切性についての見直しを実施した[0605b][0606c]。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0602	年齢構成等に配慮した計画的な教員採用・昇進

## 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	教員組織	A
※0602	b	教育学研究科資格審査教授会議事録（2017～2018年度）	B
0604	a	2018年度 第1回教育学研究科委員会議題	A
0604	b	2018年度 教育学研究科FD実施一覧（研究科委員会配付資料）	A
0605	a	2018年度（対象年度：2017年度）自己点検・評価シート	A
0605	b	教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	A
0605	c	教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の課程の認定について（通知）	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料    B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

基準7	学生支援
-----	------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・正課外教育</li> <li>・留学生等の多様な学生に対する修学支援</li> <li>・障がいのある学生に対する修学支援</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・留年者および休学者の状況把握と対応</li> <li>・退学希望者の状況把握と対応</li> </ul>	B
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談に応じる体制の整備</li> <li>・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動</li> <li>・心身の健康維持・増進および安全への取り組み</li> <li>・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援</li> </ul>	B
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備</li> <li>・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施</li> <li>・キャリア支援講座などの実施</li> </ul>	B
		(6) インターンシップは十分に実施していますか。	C
		(8) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0702 教育学研究科への入学生は、社会人・日本語を母語としない学生など多様である。そのため、学生の支援ニーズも多様である。そこで、指導教員が修士論文指導を行う前後の時間などを利用して、短い間隔で学生から修学等に関する支援ニーズの聞き取りを行い、その内容を大学院 WG 成員が共有するなどして積極的に対応している。また、進路に関しても、学部学生と同様に大学のキャリアセンターと連携した支援を実施している[0702a]。 インターンシップに関しては、これまで学生からの要望もなく実施できていない。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	多様な学生ニーズ（学修・進路）に対応するための定期的な面接活動
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	インターンシップの実施
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702	院生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携）の充実を図った。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	インターンシップの実施

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	就職支援プログラム（2018年度版）	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

**基準 8 教育研究等環境**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0802	専用の研究室をもち図書文献、コンピュータ・プリンター等を学生が利用しやすいように配置するなど、充実した環境で研究・学修が進められる状況となっている[0802a]。
0806	大学院生の主たる活動の場である大学院生研究室に関しては、大学院 WG 成員が日常的に利用状況を確認、さらに、設備・施設等の課題を大学院生から聞き取るなどして、必要に応じた改修・増備等を実施している [0806a]。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0802	院生室の設備・備品の充実
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0802	バーチャルリアリティ機能を積極的に導入した演習教材開発・使用環境の整備
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0806 院生の要望を聞き取る定期的な面接活動を行った。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0802	設備の計画的な更新（優先順位）と事業計画への申請

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	教育学研究科院生室	A
0806	a	院生室図書リスト	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

**基準 9 社会連携・社会貢献**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	B
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0902 大学院生の人数が少ないために、組織的な社会連携・社会貢献活動の実施は難しいが、それぞれの院生の研究テーマに対応したかたちで、外国人子女に対する日本語教育、海外での教師研修などを行っている[0902a]。	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0902	社会に貢献するかたちで修士論文研究成果を具現化するための学生支援
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0902	多様な社会貢献を実現するための院生数の増加
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0902	修士論文作成過程における社会貢献（日本語を母語としない低年齢者への日本語教育支援教材の開発）[0902a]。

< 今後の改善・向上計画 >

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
--------	-----------------------

0902	多様な社会貢献を実現するための院生数の増加

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	該当修士論文 (表紙)	A

提出区分 … A: 本シートと一緒に提出する資料    B: 現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	教育学研究科
--------	--------

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	教育学研究科の活動を推進する研究科委員会については議事録を作成し、持続的に安定した活動ができる体制を確保している[1120a]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	大学院WGを毎月開催し、学生のニーズに迅速に対応できる体制の整備
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	大学院生対象の諸制度（教育後継者、海外研究指導等）に対応する仕組みの未整備
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	大学院WGの検討結果等に基づいた迅速な学生ニーズへの対応。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	大学院生を対象とした諸制度に対応するための仕組みの充実

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2018 年度 教育学研究科委員会議事録	A

提出区分 … A: 本シートと一緒に提出する資料    B: 現部署で保管